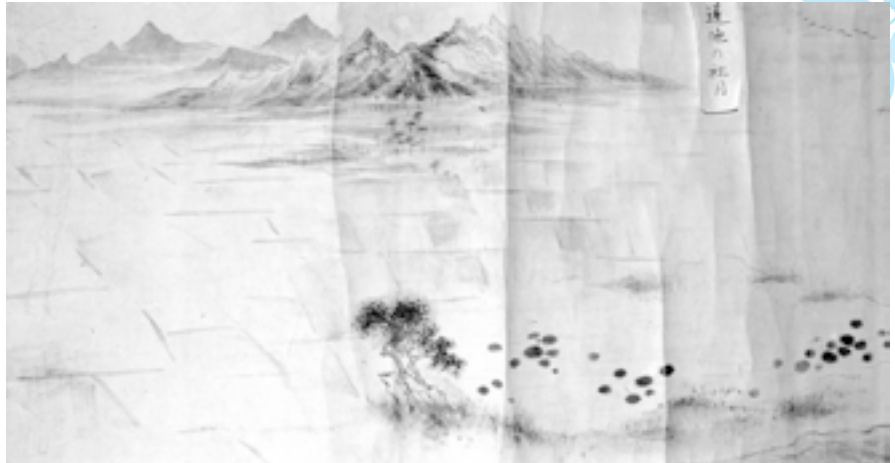


新編

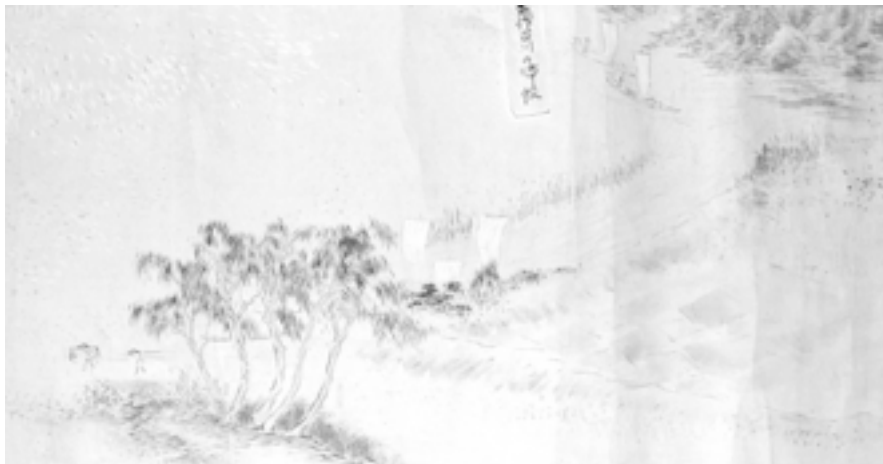
N I S H I O

第2号 2016.2.1

西尾市史だより



蓮池の秋月



矢作古川の帰帆

「江原八景」より
江原神明社所蔵
縦32.0cm 紙本著色
文化8年(1811)

「おやおや、こんなところにも文化が」と思わずうれしくなるものに出会いました。文化八年（一八一）に描かれた「江原八景」と題された画卷です。

拡げてみると、序文はなく、いきなり絵が始まり、まとまりのある景が連なっています。上部に添付された短冊の書き込み、各景の内容を明らかにしてくれます。

- 1 矢作古川の帰帆 帆かけ舟が戻ってくる夕暮れの景。
- 2 福浄寺の暮雪 福浄寺の夜の雪景。
- 3 江原大橋の夕照 夕焼けに染まる寂しい光景。
- 4 若宮の晴嵐 たなびく霞に日差しがさしこむ景。
- 5 妙喜寺の晚鐘 夕暮れ時、寺の鐘の音が響きわたる。
- 6 塚田の落雁 雁が連なって舞い降りてくる。
- 7 蓮池の秋月 蓮池の上に浮かぶ秋の月。
- 8 神明の大松 神明神社の巨松。



西尾市



刊行物のご案内

刊行
予定

『新編西尾市史研究』 第二号

A4判 平成二十八年四月中旬刊行予定

ただいま編集集中！

市史編さん事業の過程の調査・研究の成果をいち早くご紹介します。

(内容) 「室遺跡の再検討―掘立柱建物跡の復元を中心に―」「中世における吉良氏と高氏―室町期南九州の史料に見る伝承と史実―」「地域社会の近代化と農民の日常生活―幡豆郡幡豆村七番組『牧野日記』をとおりして(1)―」「華蔵寺蔵『禅定尼像』について」「常福寺本堂・善光寺堂の仏像―常福寺阿弥陀如来坐像(本堂本尊)・阿弥陀如来立像(善光寺堂安置)の美術史的調査、ならびに不動明王立像表面仕上げの自然科学的調査―」「西尾市で発見されたヒロマキミズマイマイと近縁種について」「西尾市の岩石と地質―主に採石場の岩石から―」ほか(予定)

*第一号は公表につき完売しました。

資料や情報を お待ちしています。

西尾の歴史や文化、風土がわかるような資料がありましたら、お知らせください。調査を行い、今後の市史編さん活動に役立てます。

・古文書や古い日記など ・戦前の市内の

動植物の調査に ご協力ください。

1 野草の調査や写真撮影を行うため、前もって看板と目印(ビニールテープの囲いなど)を掲示させていただくことがあります。周辺の草刈りをされる場合に、目印が付いたら

れた野草(数本程度)を残していただきますようにお願い申し上げます。

2 哺乳類(野ネズミやモグラ、コウモリなど)の生息調査のため、草むらや洞穴などに捕獲罠を仕掛けさせていただくことがあります。周囲に目印の看板を設置いたしますので、草刈りなどをされる場合は、看板の連絡先までご一報くださいますようお願い申し上げます。

新編西尾市史第二号 平成28年2月1日発行

植物調査実施中

西尾市史編さんに伴う植物調査のため、近日中にこの野草の撮影を行う予定です。ご連絡をお掛けしてまことに申し訳ありませんが、この箇所だけ、草刈りをお待ちいただきますようお願い申し上げます。

ご連絡をお願いします

＜お問い合わせ先＞
西尾市教育委員会 文化振興課
〒445-0847 西尾市亀沢町480
(西尾市岩瀬文庫内)
電話0563-56-2459
FAX0563-56-2787



哺乳類調査実施中

西尾市史編さんに伴う哺乳類調査により、周辺に捕獲罠をかけています。ご連絡をお掛けし、申し訳ありませんが、ご協力のほど、お願いいたします。草刈りなどされる際はお手数ですが、ご連絡ください。

*鳥獣捕獲許可を受けて行っています。

許可者：愛知県知事

有効期限：平成27年12月4日～平成28年3月31日

許可証番号：西第6号および西第7号

捕獲目的鳥獣：愛知県知事権限のネズミ科、モグラ目、コウモリ目全種

愛知県岡崎市中央町4-36
今泉久洋 (090-2949-6589)

担当・お問い合わせ

西尾市教育委員会文化振興課 市史編さん担当

〒445-0847 西尾市亀沢町四八〇

西尾市岩瀬文庫内

TEL 〇五六三―五六―二四五九

FAX 〇五六三―五六―二七八七

E-mail iwasebunko@city.nishio.lg.jp

八ツ面山の東、安藤川の南の
一帯が江原町。その辺りの
趣ある光景を描くこれら「八
景」は、単に八つの景色とい
うものではありません。中国
で古くより風光明媚な名所と
して名高い洞庭湖周辺の景か
らとびきりの光景を八カ所選
んで、詩に詠み、絵に描かれ



若宮の晴嵐

てきたしたものなの
です。日本では鎌倉
から室町時代につ
けて作品が中国から伝
わると、水墨画の中
心的画題として定着
し、江戸時代にはそ
れにならって近江八
景、金沢八景など、
各地に八景が設定さ
れました。ここ西尾
の江原という狭い地
域レベルでも八景が
案出されていたこと
が分かるのです。こ
こでは八つの題のう
ち「瀟湘夜雨」の夜

雨のみが大松に変わ
った以外
は、本来の情景を踏襲して
います。
全八図、いずれも現存する
寺社や地名であり、すぐにピ
ンとくるでしょう。若干の
説明が必要なのはまず「若
宮」。明治四十二年に江原神
明社に合祀される前、別の所

にあった時の姿でしょうか。
もうひとつ「蓮池」は安藤川
左岸の現蓮池新田のかつての
姿でしょう。手前には地名ど
おりの蓮の池が見えます。東
の山に満月がのぼった景を描
いて、なかなかの好図に仕上
がっています。

狭い地域に巧みに景を設定
したものだと感心させられま
すが、これを郷土自慢とし
て済ませるわけにはいきませ
ん。

絵のあとに、文化八年の年
紀を持つ跋文が続きます。大
意は次のとおり。

「辻村家の古い文書類のな
かに、吉良の庄江原の面白い
所を詠んだ歌を書いたもの
があった。紙の古さや筆使い
から最近のものではなく、丹
波守がいたところに作られた
ものに違いない。辻村さんはこ
れを題材にして八つの勝れた
景色を絵に描かせてみた。皆
で、これを使って、漢詩でも、

和歌でも、俳句でもいいから
作って楽しんでもらおうとい
い。」というのです。

そうです、西尾の江原の大
庄屋であった辻村氏を中心と
なつて「八景」を選んで絵を
描き、歌を詠んで楽しんだこ
とがうかがえるのです。この
ことは重要です。瀟湘八景の
各景を地元の景にあてはめる
ことを楽しみ、それを絵に描
き、歌に詠んで楽しむ。江戸
時代の後期の西尾の地に、こ
うした文雅に親しむ空気が浸
透していたことを明らかにし
てくれるのです。

なお、絵の最後に捺される
印から作者の名「峻溟」が分
かりますが、詳細は不明。今
後の調査に期待しましょう。

美術工芸・建造物部会
編集委員 神谷浩

こちら 古代部 会で す。

古代部会 編集委員

田島 公

古代部会は当面、史料編の刊行を目指しますが、現在は委員二名のみで構成されていることもあり、効率よく進めるため、田島が所属する東京大学史料編纂所へ研究委託を行い、史料編纂所の研究プロジェクトの一つとして史料編の編さんに取り組んでいます。

史料編纂所では、奈良時代古文書・平安遺文・古記録など古代史関係史料の全文検索フルテキストデータベースをインターネット公開しています。史料が限定される古代史の資料編纂さんでは、こうした全文検索データベースを活用して史料を入力し、デジタル画像を用いて校訂を加え、よりよいテキストを確立する、というのが効率の良い新しい方式です。編纂所の外部からではアクセス制限がありますが、所内からのアクセスには制限がなく、更にCAT Plus（ハイ キャットプラス）と呼ばれるマイクロフィルムを「デジ

タル化した画像や高精細で撮影したデジタル画像を検索・閲覧するシステムも閲覧することが可能で、それらを史料蒐集や校訂に利用できます。

そこで、十月より早稲田大学文学研究院博士後期課程古代史専攻の藤田佳希さんを史料編纂所P-R A（プロジェクトリサーチ・アシスタント）として採用し、史料編の蒐集・原稿作成に取り組んでもらっています。藤田さんは「王権から見た武士―武士・将種・兵―」（『早稲田大学大学院文学研究科紀要』五九二〇一四年）・「源経基の出自と「源頼信告文」」（『日本歴史』八〇五 二〇一五年）を発表している新進気鋭の研究者で、現在、三河国幡豆郡関連の史料蒐集を行っています。

具体的には、「三河国」や現在の西尾市域に相当する「幡豆郡」の表記が見られる史料を集め、これ以外にも三河国が属した「東海道」や現在の西尾市域の一部を含む「碧海郡」の表記が見られる史料も蒐集しています。対象とする時代は治承四年（一一八〇）の源頼朝挙兵までであり、崇峻天皇二年（五八九）から天慶三年（九四〇）までの史料が集



調査のようす

まっています。このうち、『日本書紀』以下六国史に記載されたものは既に入力済みです。

また、原稿作成に当たっては、史料の校訂も行います。つまり、CAT Plusによるデジタル画像や架蔵の紙焼き写真帳を利用し、宮内庁書陵部所蔵九条家本・伏見宮家本・柳原家本や宮内庁侍従職管理京都御所東山御文庫本、西尾市岩瀬文庫所蔵柳原家本、陽明文庫所蔵近衛家本などの古写本・善本を用いてテキストを確定し、正確な本文を作成することを目指します。特に平安時代の史料は、上記の禁裏・公家文庫に善本が多く含まれるため、正確な本文の作成が見込まれます。

作業に当たっては、善本のデジタル画像を用い、一字一句を検討

します。それでも不明な場合は、原本調査によって原稿を作成します。たとえば、陽明文庫所蔵『兵範記』仁安四年（一一五四）夏卷（清書本）「近衛家記録十五函文書の内、第十一函九号」紙背久寿元年（一一五四）十月二十六日付「志貴庄住人等解」（『平安遺文』七卷三六三六号、『新編 安城市史』五資料編 古代 二一五。志貴庄は旧碧海郡・幡豆郡域に及ぶ摂閑家の所領）は裏打ちが厚いため写真などでは読めませんが、原本調査で新たに文書署名者二名を確認できました。

さらに、史料本文には近年の研究成果を反映させることも行います。たとえば、従来不明だった三河国司の人名が近年の研究により判明した場合は、本文の傍注として付けします。

以上の作業を通して原稿の完成を目指しています。

二〇一六年二月からは、さらに明治大学大学院文学研究科博士後期課程在学の中古文学専攻の大学院生を学術支援専門職員として採用し、文書関係資料の蒐集も開始する予定です。こちらは『万葉集』や『今昔物語集』等に見える三河国の記述を対象とします。



民俗部会 編集委員

野本 欽也

民俗部会は、具体的な地域社会と結びついた民俗資料（日々の暮らしの中で形成された習俗）の「今」を記録し、それぞれの資料の多様な姿の中から、民俗変容の過程、民俗と地域社会との関わり、事象の意味などを追究することを狙っています。そのために、西尾市を大きく四地区（幡豆・吉良・一色・マチ＝旧市部）に区切り、「あるく・みる・きく・かんがえる」を調査の基本方針とし、幡豆地区から調査を開始しています。

調査の基本方針の中に「かんがえる」というキーワードを入れたのは、地域の方々の協力を仰ぎ、地域の「今」をしつかりと記録し、もう一度具体的な地域社会にフィードバックし、地域社会の問題を発見して、その解決を地域の方々と一緒に考え、今後に向けての姿を描くため

に別巻民俗を編集したいと願っているからです。

現在、調査を進めていて多くの情報を頂き、新たな発見があります。その一部を紹介します。

各地で秋の祭りが終わり、参加者が集まり慰労会が行われます。

この慰労会を幡豆、吉良、知多の海岸部では、「イタナガシ」「イタアライ」とか「ヤマオロシ」と呼んでいます。

さて、これらの呼び名の語源はと言うと、ヤマオロシは山車（ダシ、ヤマ、ホコ、ダンジリ）の解体などの後片付けを「ヤマオロシ」と称し、その後の疲れ会もヤマオロシと呼ぶようになったと言われています。一方、イタアライ、イタナガシはと言うと、山車を解体して洗ったと言うことが板洗いを指すことなのででしょうか。

ここで各地の呼称を見てみると次のようになります。イタ系・イタナガシ（幡豆・吉良・米原）、イタアライ（常滑）、イタハラ（美浜）、イタシキアライ（九州地域）、ハナイタハズシ・ハナイタオロシ（大坂南部・泉州）、ナガシ

系・オハチナガシ（遠州）、アライ系・ハチアライ（東京神田・神奈川・新潟県長岡市）、オケアライ・オケススキ（熊本北部）、ヤマ系・ヤマイキ（平田亀崎）、ヤマオロシ（常滑北条・美濃加茂市）などがあげられます。（岡本大三郎調査記録より）

幡豆地区は、海と山の地域ということで、漁労・海運に関する情報も多く聞き取りをすることができました。船乗り用語として、イワテ・風上、シタバ・風下、ナミガワラウ・波頭が砕け白くなる様子、チョウ・錨を数える時に使う。船乗りの信仰として、金毘羅宮、青峰山、白幡観音、豊川稲荷、伊勢神宮を参拝すると伝えていきます。

またこの地区は、谷地形に集落・耕地が展開している様子がしつかりと伺えます。溜池の役割と水の管理、また、沢（サワ）の地名なども記録され、地図上に落としてあるものが確認できました。例えば、七番組、旧小野ヶ谷の西上池の近くは、「オオキイサワ」と呼び、西上池の北部を「ナガザワ」と呼んでいます。



寺部の打込み太鼓

ます。

また、幡豆には、特異な祭礼行事も多く見られ、多くの人々を魅了しています。中でも、地域の人々の手厚い手ほどきを受けながら、チャラボコ太鼓や大太鼓を打つ子どもたちの姿が印象的でした。バチ（寺部では「ブチ」という）の形と呼び名も比較、検証が必要です。（伴野義広調査記録より）

今後、吉良町、一色町（佐久島）、マチ（旧市街地）へ調査を進めていきます。情報提供と調査協力をお願いします。

こちら自然部会で。

自然部会 編集委員

増田 元保

自然部会では五年間の調査と二年間の執筆編集を行い、別巻「自然編」を刊行する予定です。

歴史や文化・芸術等の分野は、「人が何を行い、何を遺してきたのか」の記録であるのに対し、自然編では人間が介在しない、文字通り自然についての記録を残します。しかし、近年は環境破壊や外来動植物等の人為的影響が無視できない時代になっています。

自然編の対象は、里山・田畑・草むら・川・池・海に見られる動植物・地質・気候などの全てとなります。動物では哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類・軟体動物・昆虫・蜘蛛・多足類や水中に棲むエビ・カニ・プランクトン、植物では藍藻・紅藻・褐藻などの海藻からコケ、シダや裸子植物、被子植物があります。さらに、西尾市は合併で面

積が約二倍となつて多彩な環境となり、大変興味深い、逆を言えば調べ尽せないほどの範囲となりました。可能な限りの時間と労力を費やす意気込みですが、自然全体からすればその一端の紹介に留まるかもしれません。

自然は毎日、市民の誰もが目にしているはずです。「これは、なあに？」という疑問に少しでも多くお答えし、人間の生活に不可欠な自然についてより関心を持つていただける内容にしたいと考えています。

西尾市域の特性は、愛知県の中央を流れる矢作川の河口部にあり、三河湾に面した温暖な土地です。植物学から見ると、東海丘陵要素植物群といわれる東海地方特有のシデコブシやシラタマホシクサ、モウセンゴケ等の希少な植物が見られます。また、湿地にはハッチョウトンボやヒメタイコウチ、周辺の里地のため池にはウシモツゴなど、この地方でしか見られない貴重な動物が生息します。特にウシモツゴは国のレッドリストで一九九一年に、愛知県のレッドリストでも二〇〇一年に絶滅危惧種に指定されています。西尾市



ウシモツゴ

は、それに先駆けて一九九〇年にウシモツゴとカワバタモロコを市の天然記念物に指定しています。ウシモツゴは地球上でも愛知・岐阜・三重の数箇所にしか生息しない貴重な魚ですが、残念なことに生息地は危機的な状況になりつつあります。西尾市でも野生個体は絶滅してしまいましたが、飼育下の水槽や保護池で命のリレーともいえる保護活動が実を結んでいます。

旧市史は、四十五年ほど前に資料編史料Ⅳとして動物・野鳥・植物の三巻を発刊しました。当時の市長の序文に「自然の攪乱・破壊が懸念され、破壊と保護、生物の消長の転

機であるように思われる（中略）この三巻は現時点での市内生物の戸籍簿であります。（中略）ここに記された市内の生物の今後の変遷消長は、この後いつの機会にか実施されるであろう再調査の結果と照らし明らかになりましようが、我々の急務はこれらの自然と生物の生存をできるだけ保障することで、これを吾々は次の世代への責務というべきであります。」とあります。この「いつの機会にか実施される再調査」が今まさに始まったのであり、五年後には五十年経過した生物の変遷消長が明らかとなるはずですが、かつては数百年から数千年、数万年かけて環境が変化し、それに対応して生物相の変化が起きてきた筈です。調査はまだ開始したばかりですが、人為的な影響により急激な変化が起きているのは間違いないさそうです。

今回の調査結果を過去のデータ、さらに先の五十年、百年後のデータと比較検討を行うことで、私たちの住む環境の変化が明らかとなり、進むべき方向を示してくれるはずです。そのときが本当の自然編の役目を果たすときとなるでしょう。

主な活動記録

(平成27年4月～27年1月現在)

● 編さん委員会 4月8日

● 編集委員会 5月3日

● 考古部会

● 部会

6月13日・9月19日・12月26日

● 調査

4月～

八王子貝塚出土資料(徳川美術館・東京大学人類学博物館ほか)

4月・10月

清水遺跡発掘調査に関する聞き取り

8月

善光寺沢南古墳測量
寺部城跡測量

〇月

● 古代・中世部会

● 部会

4月4日(中世)・11月13日(古代・中世)

● 調査

9月5日・6日 佐久島現地踏査・資料検討会

11月23日

矢島家文書(諏訪市博物館)



佐久島調査の様子

● 研究委託

10月1日～

東京大学史料編纂所(3頁参照)

● 近世部会

● 部会

4月11日・11月1日

● 調査

11月20日

実相寺(上町)文書・養寿寺(下矢田町)文書

● 寄託・寄贈文書等整理

4月～11月 計57回



実相寺調査の様子

● 近代・現代部会

● 部会

9月7日

● 調査

4月16日

5月7日

9月17日

10月7日・12月10日

市役所保管公文書
旧三町役場保管公文書
杉浦家(二色町)文書・天野家(吉良町)文書
牧野家(西幡豆町)聞き取り

● 寄託・寄贈文書整理

4月～12月 計18回

● 新聞「新愛知」調査

4月～12月

鶴舞中央図書館 計50回

● 自然部会

● 部会

5月31日・10月28日

●市内の地質・動植物調査

4月	20回
5月	20回
6月	6回
7月	17回
8月	7回
9月	14回
10月	9回
11月	6回
12月	16回

●美術工芸・建造物部会

●部会

4月28日	颯田家（吉良町）・海蔵寺
5月23・24日	花岳寺（吉良町）・華蔵寺
6月8日	実相寺（上町）・康全寺（満全町）
6月20日	寺津八幡社（寺津町）・西福寺（吉良町）
6月27・29日	瀬門神社（吉良町）
7月3日	海蔵寺（吉良町）・幡豆歴史民俗資料館
7月25日	願成寺（巨海町）・実相寺（上町）
7月31日	華蔵寺（吉良町）
8月1日	善福寺（中町）・縁心寺（同）
8月18日	安楽寺（小島町）
8月31日	颯田家（吉良町）

●民俗部会

●部会

9月20・21日	個人宅（錦城町）・正顕寺（貝吹町）
11月22日	資料館蔵石黒コレクション
12月18日	金蓮寺（吉良町）



瀬門神社馬具調査の様子

●調査

4月25日	調査協力者打ち合わせ
5月2日	製塩作業用むしろ網実演
5月23日・6月20日・27日・7月4日・11日・8月8日・9月13日	調査協力者聞き取り
6月13日	幡豆歴史民俗資料館蔵品

7月11日	山口地区・桑畑地区祇園祭
7月18日	寺部地区祇園祭
8月2日・14日	かぎ万燈
8月22日・26・27日	一色大提灯祭り
9月26日	幡豆歴史民俗資料館所蔵資料
10月10日・11日	鹿川祭礼
10月13日・17日・18日	田貫の棒の手
10月18日	中畑のおまんと祭り
10月24日・25日	桜井の棒の手
10月31日	牧野家日記
11月7日	龍蔵院 村共同墓地
11月21日	地名調査
11月29日	鳥羽の火祭り関連
12月7日	山の講調査
12月20日	てんてこ祭り関連

調査にご協力をいただいた皆さま、
情報をお寄せいただいた方々へ
心より感謝を申し上げます。

